vinetur

2026年、ブルネッロ・ディ・モンタルチーノの販売額は7億5,000万ユーロ近くに達する見通し

世界で930万本の販売を予測。米国は8%減、カナダは15%増の見込み

2026年11月19日（木）



ブルネッロ・ディ・モンタルチーノは、プレミアムワインにとって厳しい年となるなか、価値・数量ともに小幅な減少が見込まれるものの、2026年の世界の消費者向け販売額は7億5,000万ユーロ近くに達する見通しだ。

この予測は、Consorzio del vino Brunello di Montalcino向けにUIVオブザーバトリーが作成した

分析に基づくもので、11月19日（木）、モンタルチーノで開幕したBenvenuto Brunelloで発表された。同調査によると、今年は世界の小売店、バー、レストランを通じてブルネッロが約930万本販売される見込み。2025年と比べ、販売額は2.7%、販売数量は3%減少すると予測している。

この数字からは、世界市場が低迷するなかでもブルネッロが予想以上に底堅く推移していることがうかがえる。一方で、イタリアを代表する高級ワインであっても、需要の軟化を免れないことも示している。ワイン、ビール、蒸留酒の各分野で生産者や流通業者が裁量的支出の動向を注視するなか、この結果は、消費者がプレミアムワインにどう反応しているかを測る手掛かりとなる。北米では飲料企業がマーケティングや流通に投じる資源の配分を検討しており、米国とカナダの明暗も注目を集めそうだ。

調査によると、歴史的にブルネッロの主要市場である米国では、2026年の消費者向け販売額が8%減少する見通しだ。対照的に、カナダは15%増と予測され、報告書に挙げられた主要海外市場のなかで最も高い伸びとなる。ブルネッロへの支出額が最も大きい国であるイタリアは、1.2%減の見込みだ。この3市場で、原産地呼称全体の世界の消費者向け販売額の約3分の2を占める。

報告書は、デンマークとオーストリアもそれぞれ3%増と小幅な伸びを予測する一方、スイスはわずかに減少すると見込んでいる。ほかの重要な輸出市場2カ国では、より厳しい状況が予想され、ドイツは8%減、英国は7%減の見通しだ。

販売数量が減少する一方、価格はおおむね安定している。ブルネッロ1本当たりの消費者向け平均価格は、81ユーロをわずかに下回る水準を維持する見込みだ。イタリア国外の平均は約85ユーロで、国内市場の74ユーロを上回る。平均価格が最も高い市場は引き続き米国で、1本88ユーロ。スイスと英国も80ユーロを超えている。

ブルネッロ・ディ・モンタルチーノ保護協会のジャコモ・バルトロメイ会長は、消費データを分析することで、輸入業者からの注文だけを見るよりも、生産者は実際の市場状況を把握しやすくなると述べた。調査とともに発表されたコメントで、ワイン全体、なかでも高級品市場が厳しい局面にあるなか、モンタルチーノの名声は依然として重要だとしつつ、継続的なプロモーションが不要になるわけではないと付け加えた。また、協会は2027年の活動計画を拡充し、米国、イタリアの複数都市、パリ、デュッセルドルフ、チューリヒ、ブラジルのベント・ゴンサルヴェスで施策を予定しているという。

分析には、IWSR、NielsenIQ、SipSource-WSTA、米国国勢調査局など複数の情報源が用いられた。複数の市場調査データを活用していることから、協会は、変化が小売店や飲食店の需要に反映されるまで時間差が生じる輸出・出荷データだけに頼らず、最終消費の全体像をより詳しく把握しようとしているとみられる。

今回の報告書は、新ヴィンテージを披露する年次イベント、Benvenuto Brunelloと時期が重なっており、生産者にとって重要な意味を持つ。モンタルチーノで11月23日まで開催される同イベントでは、116のワイナリーが参加し、5日間にわたって試飲会が行われる。披露されるワインは、ブルネッロ2022、ブルネッロ・リゼルヴァ2021、ロッソ・ディ・モンタルチーノ2025で、いずれも2027年から市場に投入される。11月19日（木）と20日（金）の初日・2日目は、イタリアおよび海外のメディアと招待された業界関係者を対象とする。その後の日程では、生産者やワイン愛好家も参加できる試飲カウンターが設けられる。

プレビューイベントは11月25日にロンドンへ移り、英国の報道関係者と業界関係者を対象に開催される。こうした海外展開は、2026年の数字が示す中心的な課題を反映している。ブルネッロは依然として高価格を維持し、世界的な注目を集めているものの、成長を見いだすことは難しくなっており、とりわけプレミアムワインの購入者が選別を強める成熟市場でその傾向が顕著だ。